

短期肥育試験牛の枝肉調査を実施しました

平成 30 年 6 月 22 日
家畜改良センター本所

センター本所では、国が進める「革新的技術開発・緊急展開事業（うち先導プロジェクト）」のうち「国際競争力強化に向けた黒毛和種短期肥技術の開発（通称：短期肥育試験）」に、国立研究開発法人や都道府県とともに参画し、研究に取り組んでいます。これは枝肉重量や肉質等を維持しながら肥育期間を短縮し、生産コストの低減等につなげて行く新たな肥育技術の開発を目的とするものです。

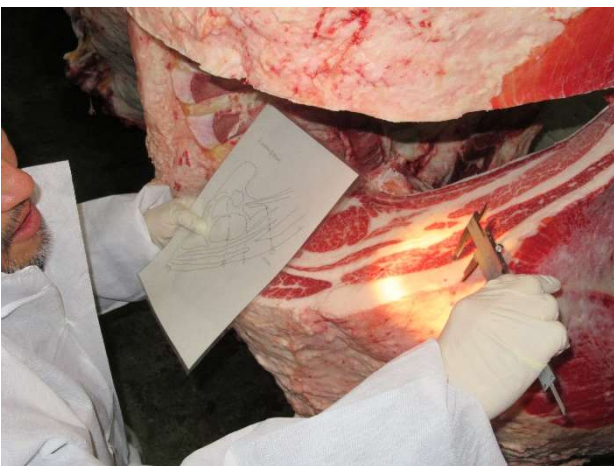
5ヶ年にわたるプロジェクトは今年度3年目を迎え、各場所において一回目の肥育試験がほぼ終了する段階です。当所でも今週2頭の肥育試験牛の出荷を行い、6月21日にそれらの枝肉調査を実施しました。

枝肉調査は福島県食肉流通センター（郡山市）のチルド冷凍庫内で行われ、ロース芯面積や枝肉各部位の測定に加え、牛枝肉撮影装置による画像撮影も実施しました。

今回は試験区（短期肥育区）及び対照区（慣行肥育区）各1頭ずつの出荷となりましたが、試験区の牛は対照区と遜色ない成績となっていました。



マス目をあてて、ロース芯面積の測定を行っているところ。



ノギスで皮下脂肪の厚さを測定している。



牛枝肉撮影装置（早坂理工）を用い、枝肉切開面をデジタル撮影しているところ。ミラーを介し、LEDによる均一な光量の下、常に一定距離を保って撮影が出来る様工夫されている。得られた高解像度の画像データは、専用の画像解析ソフトウェアを用いデータ処理される。